

第6学年 社会科 授業構想シート

授業者 西川 恭矢

本実践の主張点	「江戸幕府による政治の安定」と「町人の文化の発展」を一つの単元として構成することで、多角的な立場から歴史的事象を捉え、探究の質が高まるであろう。
---------	--

1. 単元名 江戸幕府と政治の安定 ～徳川時代265年のなぞにせまる～

2. 6年C組の子ども

学習のふり返しには、「歴史上の出来事には簡単に、判断できないことがたくさんある。」「〇〇の立場からだけでなく、□□の立場からも考えてみたい。」等の記述が見られるなど、歴史的事象を多角的な視点から捉えようとする力が育まれてきている。その一方で、日々の学校生活における事象に対する対応や社会問題における対策への考えは、まだまだ一面的なものが多く「省察性を働かせた学び（歴史の学びを自己の生活につなげる資質・能力）」は実現できていない。歴史学習を通して様々な事象を多角的に判断し、他者と調整しながら考えを再構築していける力を育成していきたい。

3. 何ができるようになるか

探究力	・社会的事象の見方・考え方を働かせながら、探究のプロセスをとおして、目の前の未知の問題に対して、解決に取り組む資質・能力
省察性	・社会的事象の見方・考え方を働かせながら、自らの学びにおいて学びの方法や道筋を調整・改善したり、学びを意味づけたり、学んだことを自己の生活や行動につなげたりする自己効力感に支えらえた資質・能力

4. 何を学ぶのか

①単元の目標

文化財や年表を活用しながら、幕府の政策や町人文化の発展、民衆の暮らしについて調べ、江戸時代が長期間続いたことや社会の安定によって町人の文化が栄えたこと、身分によって民衆の生活が制限されたことを理解し、多角的な立場から江戸時代を捉え、自分なりの考えをもつことができる。

②教材の価値

江戸時代は諸政策によって、様々な人々の生活を制限し、武士による政治の安定を図った時代であるといえる。このような時代を学習していく過程で、多くの子どもが「誰かの生活を制限した上で成り立つ安定は、本当の安定とはいえない」という考えをもつことが予想できる。そこで、町人文化の発展について調べる活動を通して、「江戸時代における政治の安定が、文化の発展をもたらした」という側面もあることに気付かせる。このように多角的な視点から江戸時代を捉えていくことで、自分とは違う考えに出合い、対話を通して自分の考えを再構成していく姿が見られるであろう。

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主 : 主体 協 : 協働 活 : 活用	省察性を育む 気 : 気付く 決 : 決める 動 : 動く
主 県立博物館での学習を計画し、郷土の偉人について学ぶことができるようにする。 協 これまでの学びと対極に位置する資料を提示し、他者との考えの「ずれ」をもとに協働しながら学ぶことができるようにする。 活 決まった答えがない問いを設定し、既習を活用しながら学習を進められるようにする。	気 互いの考えが可視化する活動を取り入れ、他者との考えの「ずれ」に気付き、自らの学びを調整したり、意味づけたりする。 決 他者と対話する活動を通して、考えを更新し、多角的な立場から自分なりの考えを決められるようにする。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全9時間） 本時 8/9 ①鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代・江戸時代の続いた年数を比較し、単元の学習問題『江戸幕府は、なぜ265年も続いたのだろうか?』を設定し、単元の学習計画を立てる。 ②なぜ、幕府は各藩の大名に対して参勤交代を命じたか考える。 ③なぜ、幕府は外国との貿易を制限したか考える。 ④なぜ、幕府は人々を職業により区別したか考える。 ⑤なぜ、京都や大坂で町人文化が発展したか考える。 ⑥町人文化が発展したころの民衆の生活について調べ、自分なりの考えをもつ。 ⑦徳川吉宗の政治について調べ、自分なりの考えをもつ。 ⑧ <u>徳川吉宗と徳川宗春の政治を比較し、吉宗を評価する。(本時)</u> ⑨単元を通して学んだこと整理し、それぞれの立場における江戸時代について話し合う。
--

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	・幕府の諸政策によって、江戸時代が長期間続いたことや社会の安定によって町人の文化が栄えたこと、身分によって民衆の生活が制限されたことを理解する。	・多角的な立場から江戸幕府の政治について話し合い、江戸幕府による政治の安定とその過程での問題点に気付き、自分の考えをもち、表現することができる。	・多角的な立場から幕府の政治について、粘り強く調べ活動に取り組み、意欲的に追究し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

社会科学習指導本時案

授業者 西川 恭矢

日時：令和2年10月21日（水）第5校時（13：30～14：15）

対象：第6学年C組 27人

本時の主張点	各資料や既習事項をもとに吉宗と宗春を比較しながら対話させることで、考えを省察し、多角的な立場から価値判断をする姿がみられるようになるだろう。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

本時で取り扱う「吉宗の政策と宗春の政策」は、相対する政策である。このような政策を比較・検討させることで、様々な社会的事象を見るための基礎が身についていくと考える。導入では、和歌山の偉人である徳川吉宗の政策を好意的に捉える子どもに対し、尾張藩主 徳川宗春の存在をその姿とともに提示する。子どもたちからは、「自ら進んで質素・儉約に取り組み、幕府をピンチから救った吉宗の政治を、御三家の一つでもある尾張藩の藩主がなぜ否定するの？」「質素・儉約とっているのに、宗春はどうして派手な格好をしているの？」といった意見が出されるであろう。このような子どもの疑問から本時の学習問題「徳川吉宗は、すぐれたリーダーといえるのだろうか？」を設定する。その後、個人による調べ学習を通して、宗春の政策（商業を重視した政策によって経済を活性化させる）を読み取らせる。既習の学びと本時における新たな学びを活用しながら、異なる考えをもつ他者と対話することでどのような政策にも長所と短所があることに気づき、多角的な視点から価値判断する子どもの姿を期待する。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時における探究の質を高める場面は、各資料や既習事項をもとに吉宗と宗春の政策を比較し、考えを伝え合う場面である。このとき、スケール図（*本時の展開参照）を活用することで、二者択一ではない子どもの考えを可視化し、対話を活性化させることができると考える。具体的には、「民衆の立場からだとなら生活が制限されない宗春の政策の方が評価できる。」「でも、吉宗は目安箱を置いたり、病院を建てたりしていることを考えると決して民衆のことを思っていなかったわけではない。」等の対話を期待する。また、子どもたちが各政策のメリットとデメリットを視覚的に捉え、根拠に基づいて対話を進めていけるよう、それぞれの意見を構造化して板書するようにしたい。

3. 本時における評価活動について

授業のはじめと終わりに学習問題に対して、自分の考えを書く時間を設定する。1時間の学習で考えたことをふり返り、自己評価することで、何をどこまで理解したのか、何が分からなかったのかを自覚することができる。また、はじめと終わりの自分の考えを比較することで、「自分の考えは話し合いによってよくなる」という自覚や「みんなの考えを合わせると答えが見えてくる」という学び方に対する省察性も働かせることができると考える。

4. 本時の目標

徳川吉宗の政策について、個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮しながら、多角的な立場から価値判断し、自分の考えをまとめることができる。

5. 本時において働かせたい見方・考え方

<input checked="" type="checkbox"/> くらべる	<input checked="" type="checkbox"/> つなげる	<input type="checkbox"/> まとめる	<input type="checkbox"/> わける	<input type="checkbox"/> 予想する	<input checked="" type="checkbox"/> 見方を変える
--	--	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	--

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 吉宗の政策を否定した宗春の存在を知り、本時の学習問題を設定する。 ○宗春も御三家なのはどうして吉宗の政策を否定するの？</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>☆ 学習問題 『吉宗はすぐれたリーダーといえるのだろうか？』</p> </div> <p>2. 宗春の政策について書かれた資料を読み取る。 ○質素・儉約は、確かに民衆を苦しめたかもしれない。 ○吉宗とは、真逆の政策で経済を立て直そうとしている。活性化させて経済を救うのは、Go To キャンペーンと似ている。 ○名古屋の人口が増えた理由もよくわかる。自分も当時に生まれていたら名古屋に行っていたかもしれない。</p> <p>3. 学習問題に対する自分の考えをスケール図に示す。 ○確かに質素・儉約は民衆にとっても大変なものだったかもしれないけど、目安箱を設置したり、自ら進んで質素な生活をしたりしているから、すぐれたリーダーといえると思う。 ○やはり、民衆のことを一番に考えるのがすぐれたリーダーだと思う。一揆が増えたということは、幕府の存続にもかかわることだと思う。</p> <p>4. 各グループや全体で学習問題について話し合う。 ○吉宗は幕府のピンチを救うことが一番の目的でしょう？それならやっぱり、吉宗はすぐれたリーダーといえそうだね。 ○でも、それによって民衆の生活が苦しくなっているから民衆から見たら吉宗はすぐれたリーダーではないかもね。 ○でも幕府が強力な力をもったからこそ、安定した時代になって町人文化などが発達した。そう考えると、安定した時代のために質素・儉約は仕方がなかったのではないかな？ ○実際、吉宗自身も質素・儉約をしているし・・・。</p> <p>5. 考えが変わったこと、深まったことを中心に学習問題への自分の考えを書き、学習をふり返る。 ○今までは、吉宗の政策はすごく評価できるものだと思っていた。でも、民衆の立場から見ると必ずそうとも言いきれないと感じた。そう考えるとすべての人にとって良い政策はないのかなとも思った。</p>	<p>・既習事項を覆す事実を提示し、驚きとともに学習問題を設定する。</p> <p>・吉宗の政策とは相反する宗春の政策の具体と効果を示した資料を提示し多角的な視点から、学習問題を捉えさせる。</p> <p>・スケール図を活用し、考えを表現させることで様々な考えを可視化し、より活発な対話を生むようにする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>・意見を整理するため、どの立場に立った意見なのかが視覚的に分かるように板書する。</p> <p>思, 判, 表 ・徳川吉宗の政策について、個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮しながら、多角的な立場から価値判断し、自分の考えをまとめることができる。</p>

研究授業Ⅱ

第6学年，社会科，指導者：西川 恭矢

単元名：「江戸幕府と政治の安定～徳川時代265年のなぞにせまる～」

【各教科・領域において習得した知識(内容知・方法知・体験知)の活用・発揮が促され，互いの探究のプロセスが充実していくイメージ】

